

第7回 仙台市総合計画審議会議事録

日 時	令和2年6月9日（火） 18:00～20:00
会 場	TKP ガーデンシティ仙台 ホール21
出席委員	阿部一彦委員、飯島淳子委員、岩間友希委員、姥浦道生委員、遠藤智栄委員、奥村誠委員、加藤和彦委員、菊地崇良委員、小岩孝子委員、今里織委員、今野彩子委員、今野薫委員、榊原進委員、笹羅良輔委員、佐藤和子委員、佐藤静委員、庄子真岐委員、竹川隆司委員、舘田あゆみ委員、傳野貞雄委員、西澤啓文委員、浜知美委員、舟引敏明委員、渡辺敬信委員、渡邊浩文委員 [25名]
欠席委員	阿部重樹委員、佐々木綾子委員、高城みさ委員、永井幸夫委員 [4名]
仙 台 市 (事務局)	梅内まちづくり政策局長、郷湖まちづくり政策局次長、松田政策企画部長、上田政策企画課長、郷古地方分権・大都市制度担当課長、阿部政策企画課主幹、長谷川政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 副会長選出 3 副会長挨拶 4 議事 (1) 令和2（2020）年度 審議会日程について (2) 基本計画の検討について (3) その他 5 閉会
配付資料	資料1 仙台市総合計画審議会委員名簿 資料2 令和2（2020）年度 審議会日程 資料3 新型コロナウイルス感染症の基本計画への反映について 資料4 新型コロナウイルス感染症の基本計画への影響一覧 資料5 仙台市基本計画（中間案素案） 参考資料1 仙台市新型コロナウイルス感染症緊急対策プラン 参考資料2 仙台市基本計画（中間案素案）概要版

1 開会

○松田政策企画部長

本日は、お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、仙台市総合計画審議会を開会いたします。

本日はWebで映像を映す都合上、皆さま着席のままで発言するという形で進行いたします。それでは奥村会長、よろしく願いいたします。

○奥村誠会長

ただいまから「第7回仙台市総合計画審議会」を開会いたします。

はじめに、本日の審議会の運営の仕方について、事務局から説明がありますので、よろしく申し上げます。

○松田政策企画部長

政策企画部長の松田でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは事務局より、本日の審議会における新型コロナウイルス感染症の拡大防止策についてのご説明と、委員及び傍聴されている皆さまへご協力のお願ひをいたします。はじめに新型コロナの拡大防止策ですが、ソーシャルディスタンスの確保のほか、本日は Web 会議システムを併用いたしまして、一部の委員の方は、Web 会議方式でご参加いただいております。

会長及び Web 会議で参加されない委員の皆さま、そして私ども事務局関係者につきましては、ここ AER21 階の TKP ガーデンシティ仙台の会場から参加いたします。

会場内では、ソーシャルディスタンスの確保のほか、アルコール消毒剤の使用などのコロナ対策を講じております。

傍聴席につきましても、ソーシャルディスタンスを確保した上で、会場内に Web 会議の画面を投映するスクリーンを設置しまして、そちらをご覧くださいこととしております。

また、傍聴される皆さまには、受付で事前に発熱の有無など体調を確認してございまして、症状のある方は傍聴をご遠慮いただく形となっております。

会場においでの方の委員及び傍聴者の皆さまには、マスクの着用、アルコール消毒剤の使用、咳エチケットの励行にご協力いただきますようお願い申し上げます。

なお、会場内で使用するワイヤレスマイクは、ご使用になられる都度消毒しながら皆さまにご利用いただく形となりますので、あらかじめご了承ください。

Web 会議でご参加の方を含めた委員の皆さまへのお願ひでございます。本日は、ここは大変広い会場となっております。また、Web でのご参加もあるということでございまして、ご発言をされる際は、委員のご参加の皆さまに発言があることが伝わりますよう、「〇〇ですが会長よろしいでしょうか」というような感じで、お名前を名乗っていただいた上でご発言いただきますよう、お願ひいたします。

なお、音声聞き取れなかった場合等には、再度ご発言をお願いする場合がありますので、あらかじめご了承ください。

○奥村誠会長

ありがとうございました。少し慣れない状況ですけれども、皆さまご協力をよろしくお願ひいたします。

次に、委員の変更及び定足数の確認を行います。事務局から報告をお願いします。

○松田政策企画部長

はじめに、委員の退任及び新任の委員についてご報告をいたします。

お配りしている資料 1 「仙台市総合計画審議会委員名簿」をご覧ください。

これまで副会長を務められておりました折腹実己子委員でございますが、ご本人からの

お申し出によりまして、3月31日付けでご退任をされております。

また、これまで委員を務められておりました、仙台市PTA協議会副会長の中坪千代委員でございますが、このたびのPTAの役員改選で副会長を退任されたことに伴いまして、本審議会の委員も退任されました。中坪委員の後任の委員といたしまして、本日はご欠席となっておりますが、仙台市PTA協議会会長の高城みさ委員が就任されましたので、本日はご報告いたします。

なお、現時点で委員数は29人となっておりますが、空席となりました委員1名につきましては、現在調整をしておりますので、決まり次第、皆さまにお知らせしたいと思います。

続きまして定足数でございますが、本日はWeb参加の方を含めまして、現時点で24人の委員の方にご出席をいただき、定足数である委員の過半数の出席を満たしておりますので、ご報告いたします。

なお、本日はご欠席の連絡をいただいておりますのは、阿部重樹委員、佐々木綾子委員、高城みさ委員、永井幸夫委員でございます。また、菊地崇良委員は、遅れてのご参加となっております。

○奥村誠会長

ありがとうございます。次に会議の公開・非公開の取り扱いですが、前回と同様、公開としたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(了承)

ありがとうございます。それでは公開といたします。

続きまして、本日の議事録署名委員の指名ですけれども、3月末の各部会では今野薫員と今野彩子委員にそれぞれお願いいたしましたので、今回は榊原進委員にお願いしたいと思います。

(了承)

よろしく申し上げます。

それでは事務局から資料等の確認をお願いします。

○松田政策企画部長

皆さまには本日の資料を事前に郵送でお送りしておりますほか、会場参加の委員の皆さまには、お手元に本日の資料一式をご用意しております。

本日の資料は資料1～5及び参考資料1、参考資料2でございます。

ご確認いただきまして、資料の不足はございませんでしょうか。

なお、会場参加の委員の皆さまにおきましては、前回の部会の資料など、これまでの主な資料を綴りました青いファイルを、机にご用意しておりますので、必要に応じてご使用ください。

○奥村誠会長

ありがとうございます。

2 副会長選出

○奥村誠会長

次第の2。副会長選出でございます。

はじめに事務局から説明をお願いします。

○上田政策企画課長

それではご説明いたします。4月から政策企画課長を務めております、上田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

副会長を務められておりました折腹委員につきまして、先ほど退任ということでご報告をいたしました。このため現在、副会長が空席となっております。

副会長でございますが、「仙台市総合計画審議会条例」の第4条に、「副会長1名を委員の互選によって定めること」となっておりますので、今回、副会長の選出をお願いするものでございます。

○奥村誠会長

それでは互選により、副会長選出するということにつきまして、皆さまにお諮りしたいと思っておりますが、ご意見はございますか。

阿部一彦委員をお願いします。

○阿部一彦委員

私は、遠藤智栄委員を副会長に推薦したいと思っております。

遠藤委員は、市民協働や地域づくり、さまざまな場面で深い知見をお持ちということ、またコーディネーターとして議論をまとめていくご経験も豊富です。

地域とくらし部会では部会長代行も務められていまして、私が困ったときは「遠藤委員、いかがですか」と言ってきた、そのような経緯も含めて、私は遠藤委員が副会長にふさわしい方であると考えています。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ただいま阿部一彦委員から副会長に遠藤智栄委員をご推薦いただきましたけれども、皆さんいかがでしょうか。

異議がないようですので、それでは遠藤智栄委員に副会長をお願いしたいと存じます。では、遠藤委員はこちらの副会長席にご移動をお願いいたします。

3 副会長挨拶

○奥村誠会長

それでは遠藤智栄副会長から一言ご挨拶いただけたらと思います。よろしくお願ひします。

○遠藤智栄副会長

今ご推薦いただきまして、ご承認いただきました、地域社会デザイン・ラボの遠藤智栄と申します。

まずはこの審議会がより活発で、皆さんの思いがしっかり載るような審議会になっていくということを、会長の下で、そして皆さんをお支えするとともに、これから10年間の計画づくりですので、「10年間、自分もしっかり関わるぞ」という思いで、最後まで皆さんと良いものをつくっていきたくと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

○奥村誠会長

どうもありがとうございます。ではよろしくお願ひします。

4 議事

(1) 令和2（2020）年度 審議会日程について

○奥村誠会長

本日の議事を進めたいと思います。議事の（1）について、事務局から説明をお願いします。

○上田政策企画課長

それではご説明いたします。資料2の「令和2（2020）年度 審議会日程」をご覧ください。

審議会の今後の日程でございますが、この資料2の半分から下のところに、令和2年度の日程を記載しております。今年度は全6回の開催を予定しております。

本日第7回の開催日のあと、7・8月に各1回の審議会を開催いたしまして、8月上旬に予定される第9回審議会でも中間の取りまとめを行いたいと考えております。

その後、感染症の状況も注視しながら、9月から10月にかけてパブリックコメント、中間説明会、市民参画イベント、こういったものを実施いたしまして、市民の方からもご意見を頂戴いたします。

その結果を踏まえ、11月以降、さらに審議を進めてまいりまして、年明け1月の第12回審議会でも答申案を取りまとめいただくというスケジュールを考えております。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご質問あるいはご意見ありませんでしょうか。

よろしいですか。

ではこういう日程で進めていくということになります。

(2) 基本計画の検討について

○奥村誠会長

続きまして、議事の（２）です。事務局から説明をお願いします。

○上田政策企画課長

ご説明いたします。続きまして、資料３をご覧ください。

「新型コロナウイルス感染症の基本計画への反映について」でございます。前回の部会以降、コロナ感染症の社会に与える影響は非常に大きなものとなっております。中長期的にも社会や生活のあり方自体に波及してくるものと考えております。

このことから、基本計画の中においても新型コロナウイルス感染症の中長期的な影響に対するシナリオを織り込んでいく必要があると考えておまして、現時点での感染症の中長期的な影響の分析、基本計画への反映の基本的な考え方を今回取りまとめましたので、その点についてご説明いたします。

資料３の「１ 仙台市の対応状況」でございますが、こちらについてはこれまでの仙台市の目下の対応について記載しております。２段落目に記載しておりますけれども、先般、「新型コロナウイルス感染症緊急対策プラン」を仙台市として策定いたしまして、主に年度内を目途に進める取り組みにつきましては、こちらの対策プランに記載しております。

本日の資料の中に参考資料１がございまして、こちらが緊急対策プランの本編になっております。こちらについては後ほどご高覧いただければと考えております。

続きまして資料３に戻ります。「２ 社会への中長期的な影響を踏まえて特に意識すべき視点」というところでございます。こちらにつきましては、基本計画の策定にあたりまして、特に意識すべき点についてまとめたものでございます。

大きく２つの視点を掲げておまして、１つ目は「社会の変化への対応力」、そして２つ目は「仙台の優位性」です。これは仙台ならではの強みを生かすということでございますが、まずはこういった２つの視点を掲げております。

「（１）社会の変化への対応力」につきましては、今般の感染症のような、予測困難な危機が訪れるということは今後も想定しておく必要があると。そのような危機が訪れたとしても、まちづくりへの挑戦をとめることがないよう、社会の変化への対応力を高めていく、こういった視点が必要ではないかということで書いております。

具体的には３点掲げておまして、１点目はリモートやオンライン導入の加速化というものもかなり進んでまいりました。こういったテクノロジーをさまざまな場面で積極的に活用いたしまして、例えば対面が困難な状況になってもオンラインでつながるというように、多様な選択肢を増やすといった取り組みが必要ではないかということを書いております。

２点目につきましては、一方でテクノロジーの進展によりまして、生活様式が大きく変化した際には、例えばメンタルヘルスへの悪影響でありますとか、そういった諸課題が発生することも考えられますので、そういった課題に適切に対応していくことが必要ではないかというところ。

3点目といたしましては、仙台市も市民協働というコンセプトをこれまでも掲げてきておりましたので、これからコミュニケーションの多様化が図られる中では、さらにこの協働の歩みを止めずに進めていく必要があるのではないかとこのところを視点として掲げております。

続いて「(2) 仙台の優位性」でございます。首都圏など、大都市の過密リスクということがだいぶ叫ばれておまして、地方への転換意識というものも徐々に高まってくるのではないかと、そのような想定がございます。

そうした中では、仙台市といたしましても、今回「The Greenest City」という理念を掲げておりますが、そういった仙台ならではの理念を掲げまして、効果的に発信して仙台が選ばれる都市を目指していく、そういった視点が必要ではないかと考えております。

具体的に2点ほど掲げておまして、1点目は、自然と都市機能の調和、グリーンインフラの充実、震災を経て培ってきた危機への対応力、こういった仙台ならではの強みをいっそう高める、そういった取り組みが必要ではないかという視点。

2点目は、人や企業の流れを具体的に呼び込むためには、例えば都心部を中心に、ビジネス環境を充実させ、あるいは仙台の自然環境、そういったものを有する郊外エリアの活性化、こういった視点なども必要になってくるのではないかと考えております。

資料3の裏面にまいりまして、それでは基本計画にどのように反映させていくかという方向性についてのまとめでございます。

(1)は、「新たな杜の都へ」という基本的な理念についてでございます。これまでも審議会の中で、仙台ならではの強みを掛け合わせ、「The Greenest City」という理念を掲げて挑戦していくということを掲げておりましたので、こういった視点は、コロナの状況を踏まえて、よりいっそう意義深いものになったのではないかと認識しております。また、目指す都市としての姿についても、方向性自体は変わらないものではないかと考えております。

一方で、こうしたコロナの影響に基づく視点ということ自体につきましては、しっかりと基本計画の中に書き込んでいくということも必要ではないかと考えております。

具体的には今回、資料5で「仙台市基本計画（中間案素案）」をご提示しております。そちらの11ページで、今申し上げました2つの視点を「社会の変化を力に変えるための視点」ということで、1ページ設けて書き込むということを考えております。これについては、後ほど素案の説明の中で触れたいと思います。

また、資料3の裏面に戻ります。チャレンジプロジェクトということで、今回8つのプロジェクトを掲げております。こちらのチャレンジプロジェクトにつきましても、切り口や方向性を大きく変えるという必要までは考えておりませんが、内容につきましては、なお精査の必要があると考えております。この点について少し検討する必要があるのではないかと考えております。

具体的にはそれぞれ「医療・福祉」「教育・子育て」など、それぞれの分野ごとの中長期的な影響と、それから8つのプロジェクトそれぞれの中で対応する部分があるか、あるいは足りない部分はないかということで、検討としたものがこの資料4でございます。

こちらにつきましては、一覧をご覧いただきたいのですが、こういった点を踏まえて、

資料5でプロジェクトごとにコロナの影響について対応する部分につきまして、黄色いマーカーで着色いたしました。

こういったところで足りない部分であるとかも含めまして、我々で考えていることを少し素案の中で示しております。全体的にこういう反映のあり方で良いのかという、そもそもの議論もごさいすけれども、こういった反映のさせ方ではどうかということで今回ご提示しております。

続きまして、資料5についてご説明いたします。こちらが「中間案素案」ということで今回取りまとめたものでございます。全体としては、これまで部会でいただいたご意見を踏まえて修正をいたしまして、これまでの素案では短い文であるとか、キーワードでお示ししていたものを文章としてさらに書き進めたものでございます。こちらでポイントとなる部分について、これから若干触れながら説明いたします。

まず11ページでございます。こちらについては、先ほどコロナの中長期的な影響で説明しました通り、「社会の変化を力に変えるための視点」をこのたび1ページ盛り込んでおります。

続きまして14ページ以降、「チャレンジプロジェクト」につきましては、部会でもご審議をいただいております。こちらについて、部会でのご意見を踏まえて修正した部分でありますとか、あるいはコロナの中長期的な影響に対応する部分についてご説明いたします。

まず15ページ、「①杜と水の都プロジェクト」でございます。こちらは、項目02の緑、それから03の水辺というような項目立てしておりますが、この辺については仙台の優位性ということで、緑・水辺を打ち出していく必要がありましたので、しっかり打ち出していくという意味で項目についても緑・水辺を使用しております。

続きまして17ページ、「②防災環境都市プロジェクト」でございます。こちらは、部会でのご審議を踏まえまして、より防災環境都市の具体的なイメージが湧くように、全体的に内容を具体化して書いております。

また、コロナの影響との関係で申し上げますと、実施の方向性01の「防災・減災の備え」という中に、感染症対策もしっかり盛り込んでいくこととか、あるいは02・03の方向性の中では、やはり防災環境都市という、仙台で優位性を高めるという観点から、例えば項目02であれば環境への配慮や投資、それから03であればグリーンインフラの充実というところも今回しっかり書いております。

続きまして19ページ、「③心の伴走プロジェクト」でございます。こちらは、特にコロナとの影響の関係で申し上げますと、実施の方向性02・03という部分について、やはりコミュニケーションツールの多様化で、社会的支援を必要とする家庭とつながるためのオンラインの活用というところを02の中に書いておりますし、03の中ではやはり心のケアというところをしっかりとしていく必要があり、「心を支える環境をつくる」について書いております。

「④地域協働プロジェクト」でございます。こちらは、特に「03 企業やNPOの力を地域に活かす」ということで、先ほど主な視点などところの協働についても触れておりましたが、そういう視点から書いております。

続きまして23ページ、「⑤笑顔咲く子どもプロジェクト」でございます。部会のご審議を踏まえまして、あまり失敗しないようにという守りの姿勢ではなく、子どもについてもできるだけ多くのことにチャレンジし、成長できるというポジティブな姿勢から目標、それから実施の方向性を具体的に書き込んでおります。

コロナの影響ということに関しては、実施の方向性01では、子どもたちの自己肯定感という観点をしっかり書き込みをいたしましたし、また、オンラインの活用についても方向性の01・03でしっかりとそういった手法も活用できていくようにということで、今回書いております。

続きまして25ページ、「⑥ライフデザインプロジェクト」でございます。こちらは、実施の方向性02で、やはりこれから多様な働き方がコロナ後も出てくるので、一人一人が希望するキャリアを描けるということとか、多様な働き方ができる環境をつくるということについて書いております。

また、方向性03については、医療などの分野においてもICTといった技術を活用することについて、今回コロナを踏まえて書いております。

27ページ、「⑦TOHOKU未来プロジェクト」でございます。こちらは全体的にグローバルな視点ということをもととの案では書いておりましたが、やはりグローバルとローカルの両方の視点について意識的に書いた方がいいだろうということがございまして、実施の方向性02では農林水産業の活性化でありますとか、地域内で循環する経済活動について書いております。

最後、29ページ、「⑧都心創生プロジェクト」でございます。こちらは、01でこれまでリノベーションということをだいぶ中心に書いておりましたが、企業を呼び込んで来て競争力のあるビジネス環境をつくることについては、ビル自体の建て替えによる機能更新ということも必要になってくるので、実施の方向性01につきましては、「投資を呼び込むまちをつくる」という項目立てをいたしまして、建築物の建て替え、それからリノベーションの両面について記載をしております。

駆け足ではございますが、チャレンジプロジェクトについて今回整理した点をご説明いたしました。

引き続きまして、31ページからでございます。ここからは仙台市役所が中心となって進める個別の施策一覧ということで盛り込んでおります。

ここからはどちらかというと仙台市がさまざまな主体と一緒に進めるということを知りやすくするために、タイトルを「仙台市役所の運営方針」ではどうかということで変更いたしました。

31ページから32ページにつきましては、「仙台市役所が大切にしている姿勢」として施策の一覧に先立ちまして5項目の運営方針について記載をしております。

続きまして37ページ以降につきましては、「施策の体系」でございます。これまでここから先の部分、仙台市の施策についてはキーワードのような形で示しておりましたが、今回は各項目について文章化をして記載をしております。

66ページ以降は、「区別計画」について記載しております。

区別計画につきましては、仙台市の中でも地域特性がさまざまであるということ踏ま

えまして、区別に計画を策定していくものでございます。

1枚おめくりいただきまして、67ページからイメージをお示ししておりますが、各区とも「区の成り立ち」、それから67ページ2番といたしまして「特性と動向」、それから1枚めくっていただいて70ページに行きますと、「地域づくりの方向性」という3つの項目で記載しております。

70ページの「3 地域づくりの方向性」は、昨年度行いました区民イベントで区民の皆さまから寄せられた意見について記載しております。今後の審議会でさらにこの部分も書き込んだものを、また修正案としてご提示いたします。

最後に87ページでございます。最後の章を「進行管理の方針」として、この基本計画を具体的に進めていくにあたっての管理の方針を書いております。具体的には、さらに具体的な実施計画をつくり、それに基づいて進行管理をしていくことを書いております。

非常に駆け足の説明となってしまいまして恐縮でございましたが、今回お示した素案、それからコロナの影響の盛り込み方についてのご説明は以上でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございました。今、説明がありましたように、今回の審議会でこれまでの部会での審議を踏まえた内容に加えまして、新型コロナウイルス感染症の中長期的な影響力をどういうふうに反映させるかということについて、議論しておきたいということであります。

この感染症の基本計画への反映の考え方については、今事務局から説明がありましたけれども、資料3のところで大まかな考え方ということで、基本的な方針は、大きく変えないけれども、「社会への対応力」と「仙台の優位性」というような2つの観点で少し付け加えていきたいということでした。

それから資料4では、8つのチャレンジプロジェクトの中で、少し追加して考えないといけない視点についてまとめてありました。

それらを受けて資料5の本文の叩き台というところで、現時点での中間案素案をまとめていただいています。特に11ページが丸々新しく1ページ付け加えられています。「社会の変化を力に変えるための視点」というページです。

そういうことで、この反映させたところを黄色のマーカーで着色していただいております。

今、お示しいただきました資料を踏まえて、本日の審議の進め方ですけれども、まず、新型コロナウイルスの中長期的な影響を基本計画に盛り込んでいくことについて、事務局から説明いただいた反映の方向性や盛り込み方という大枠の部分について、委員の皆さんからご意見をいただき、審議会として一定の確認を行いたいということが1番目です。

続きまして「Ⅲチャレンジプロジェクト」について、黄色の部分の中には、各部会での審議を踏まえて作成されたところに対しての改善というか、書き換えられているところもありますので、これらを全体的に確認いただいて、ご意見をいただきたいと思っております。

最後に、今回初めてというか、具体的に文章の形で出てまいりましたけれども、「Ⅳ仙

台市役所の運営方針」「V 区別計画」「VI 進行管理の方針」というところも出てきましたので、残りの時間でこれらの部分についてご意見をいただきたいと考えております。

それではこれから具体的な審議に入りますけれども、先ほど申しあげました 1 点目、新型コロナウイルスの中長期的な影響を基本計画に盛り込んでいくことについての方針・考え方。それから 2 点目がチャレンジプロジェクトの内容なのですけれども、これは関連してくる部分もございますので、まとめて審議をしたいと思っております。

ただいま 18 時 40 分ですけれども、最大で 1 時間かかるかどうかは分かりませんが、最大 1 時間で 19 時 40 分頃までを目途に、この部分の審議を行いたいと思っております。

それでは、皆さまからご意見がありましたら、お伺いしたいと思います。

では、どなたからでも結構ですので、このコロナウイルス絡みのところからご意見をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。

舟引委員、よろしくお願いします。

○舟引敏明委員

資料 3 「2 (2) 仙台の優位性」というところで、企業のリスク分散とか、居住地に対する価値観の変容というものに対する転換意識が高まることが想定されて、その結果として仙台市の比較優位性が出てくるというところは、一番重要なポイントだと思います。アフターコロナで、日本中のライフスタイル、企業のスタイルが変わっていく中で、仙台の優位性をいかに伝えていくかということだと思います。

一方で、11 ページに行くと「仙台ならではの強み」という表現はあるのですが、何が仙台ならではの強みかというのが、ずっと読んでいてあまり出てこない。自分のことを自慢するのを奥ゆかしいと感じる東北人かもしれないけど、ここで仙台の何が比較優位に立っている要因かということ、この 11 ページにもう少し書き込んでもらおうと分かりやすいのではないのでしょうか。

要は、大都市圏に比較すると、職住近接だし、自然に近いし、前の部会の際に竹川委員がおっしゃっていたのですが、温泉に 20~30 分で行けるとか、企業行動だとか、個人の住まいの行動を左右する要因で、こんなに仙台が優れているということ、これは総合計画の共通認識の部分ですから、みんなで「仙台こんなところだ」と。これからのライフスタイルの中では選ばれる都市というよりは、選ぶべき都市みたいな世界だと思います。すみません、冒頭でこんなところです。

○奥村誠会長

ありがとうございました。事務局から何かありますか。

○梅内まちづくり政策局長

事務局の梅内でございます。事務局の中でも 11 ページの書き方と、資料 3 の連動性と言いますか、この辺をどれくらいはっきり書くかというのも議論のあったところでございます。

今、舟引委員がおっしゃったようなことについても、11 ページを中心にどのようにしつ

かり書けるか。選ぶべき都市というお話もありましたので、その辺りについて検討させていただきたいと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。私の認識だと要するに、都市個性が最初に書いてあって、それで 11 ページがあるわけだから、たぶん都市個性のところをちゃんと読めば、いかに仙台がすばらしい個性を持っているかということが書いてあるはずなのです。

ただ、トーンとして見やすいかということ、奥ゆかしさが少し出ているかなという感じはするのですけれども。たぶん話のつながりとしては都市個性のところ、いいことはいっぱいあるということが認識されていて、それをもう一度再確認しながら生かしていきましょうということだろうとは思っています。

それではほか、いかがでしょうか。

館田委員、お願いします。

○館田あゆみ委員

今のところなのですけれども、総合計画にどう入るかが少し悩ましいのですが、資料 3 の「(2) 仙台の優位性」に、「効果的に発信することで」という説明がありますけれども、私はここをもっと強く、例えば①②のところに認知度を向上させるというか、外の人にもこれを認めてもらえるような取り組みというか、文化が少し必要なのではないかと感じまして。

基本計画に入れるかどうかは難しいのですが、最近のコロナの話でも、防災 ISO の話が出てきても、全国の、首都圏の人とか西側の方々は、仙台がそれを頑張っているということに驚くほど知らないのです。

「仙台の人たちが」と言っても「全然知らなかった」と。そして企業の人たちはみんな「西に西に」と気持ちが向いていっている感じが非常にしまして、奥ゆかしいというか、もっと発信とか「認知度を向上させるのだ」みたいなモチベーションがどこかにあってもいいと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。重要なことだと思います。

ではそのほかいかがでしょうか。

竹川委員、お願いします。

○竹川隆司委員

コロナの中長期シナリオを織り込むということ自体に関しては特に違和感がなくて、社会の変化への対応力とか、仙台の優位性をより出していくというところの大枠は全く違和感がないのですけれども、今回加わった 11 ページとか、黄色で足されたいくつかの部分について、これまでの総合計画全体を見たときのタイムラインというか、視点というか、私はどうしても少し違和感があります。

これまでは、例えば「はじめに」というところを読んでも、戦後から現在を見据えた話を書いてあり、総合計画自体も 10 年間見据えたものという、いわゆる中長期の話だと思うのですけれども、例えば 11 ページに書いてある話で、「今は」とか「今回」とかという言い方が入っているところであるとか。個別のチャレンジプロジェクトを見ても、こんなにオンラインに振りすぎているのかというところをすごく感じています。本質的に変えるべきでないというか、本質的に強化すべきところと、今見えている景色から発言している話が混在している気がしてしまっております。

では、どうやって解決したらいいのかというのは、私も分かっていないのですけれども、例えば 11 ページに関しては、これは少し違う性質のものであるということをも明記できないのかなということを考えています。

この視点というのは 2019 年のことを受けて 7 月時点ぐらいで考えたことなのだと思います。このことを明記しておかないと、5 年後にこれを見たときに、例えばもう完全に収束していて、ワクチンもあって、「何を言っているのだ」ということになりかねないと思っています。その性質をもしここに残すのであれば、やはりここだけは時限的なタイミングを明記するみたいなことがあってもいいのではないかと個人的には感じております。

いずれにしても、これまでの全体的な中長期的な視点の雰囲気と、コロナを受けて、少し感覚も含めた短期的な視点が混在してしまっていて、それを整理しなくてはいけないというのが、全体を見て感じていることになります。

○奥村誠会長

大変本質的なご指摘かと思えますけれども、事務局側はどうお感じですか。

○松田政策企画部長

まず 11 ページのここだけが直近のトピックスを取り出して書いているというのはまさにその通りです。書き方というか、表題というか、位置づけを少し工夫しなくてはいけないのかなと竹川委員のご指摘を踏まえて思いました。

ただ、書いてあることは、今のこの変化を中長期的な目線になるべく置き換えて書いているつもりではありましたけれども、5 年後 10 年後に見たときに、いったいこれが何でここに入っているのかというところを、もう少し組み立てを考えなくてはいけないのかもしれないと思いました。

「2019 年に発生した新型コロナウイルスは」という、書き出しがそもそもいいのか、それとも「社会の変化を力に変えていく必要がある」ということを最初に書いた上で、そのきっかけが新型コロナウイルスだったという書き方がいいのかも含めて、書いている内容を大きく変えるということではないのですが、読んでいる方に違和感がないような形での組み立てを工夫したいと思っております。

それから内容が結構オンラインに振りすぎているのではないかとのご指摘を頂戴しました。実はここは行政としては非常に遅れているという認識がありまして、今回のコロナでここが非常に大切なところだろうというところを書いたものではございますが、逆に言うとオンラインが主流になるべき分野もあるかもしれませんが、オンラインだけではな

くて、例えば教育であれば、やはり現場の教育が基本で、オンラインがそれをさらに補完していくような、まさにベストミックスみたいな考え方の分野もあると思いますので、そこは読む方に誤解のないように、すべてオンラインに変わっていくのではないかというようにすることがないように、書き方ももう1回確認をさせていただきたいと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょう。

菊地委員。

○菊地崇良委員

コロナウイルスを踏まえた分析についてはこの通りだと思います。同時に私たちが今回手痛く感じたのは、安全であるということが、なお東日本大震災以降改めて痛感したところであります。その部分をもう少し全体の中しっかりと打ち出す必要があるのではないかと見ていたときに、1ページ・2ページの計画策定の中に、私たちが今後目指すべきまちの、あるいは人の目指すべき理念的なことが含まれているのであれば、この中に安全の部分をもう少し含めていかなければいけないのかなと。それがあって、それぞれの区別計画なり、都市機能のベースの方に反映していくのではないかと。大前提の話をもう1つ申し上げたいと思います。

あともう1つ。これは非常に難しいのですが、2ページに関連して、「私たちの価値観と暮らしを一変させる」という話があります。この価値観、あとは新たな価値というのがこの文中にいっぱい出てくる。でも、この私たちの価値観、前者の価値観については、以前も申し上げたけども、物質的な豊かさには限界があるから、心の豊かさという話に加えて、今言った安全というものも入ってくるだろうと思うので、その部分をもう1回見直していただきたいと思うところでもあります。

○奥村誠会長

ありがとうございます。これも重要なところです。

ここの先の11ページの違和感というのもそうなのですが、挑戦を続ける都ということになるための、その前提としての安全とか、個々の人であるとか、新しい考え方を尊重する考え方とか、そういったものの重要性を繰り返し我々は再認識してきて、それをベースにこれからもやりたいという、そういう感じが伝わるというのかなと思います。

コロナも1つの練習問題というか、個性を生かしていきながら、その場でできることを皆さんで知恵を出しながら掛け合わせて対応していくという姿勢そのものが結構重要だということが伝わってほしくて。今回どう乗り切るかということが重要というよりは、次もその次も諦めずにやっていくのだと。そのベースになるのが、今までの個性をきちんと受け継いでいく、そのさらにベースに安全性みたいなものがあるという感じになるというのかなと思います。

この「社会の変化を力に変える」というのは、前向きでいいのだけでも、でも「そんな簡単にうまくいくかな」「そうはいかないかもしれないな」というか。絶えず頑張れるよ

うに、基礎となるものをしっかりと保ち続けるというか、そういう感じがあるといいかないと感じます。

そのほかどうでしょうか。

庄子委員。

○庄子真岐委員

今の話を伺いまして、12 ページの図についてなのですけれども、コロナの影響を受けて仙台の新たな優位性というのが見いだされてきたのかなと感じております。

ただ、都市個性というのは、おそらく優位性から来ているものだと思うのです。なので、都市個性の環境とか共生と学びとか活力の1つ1つの中に、今回の感染症を受けて新たに出てきた仙台の優位性というものを埋め込んでしまう。なぜか、「都市個性」と「社会の変化を力に変えるための視点」が、同列で並んでいるところに少し違和感を覚えています。

強みは都市個性のままでいいのかなと。視点として、社会の変化への対応力みたいなものが大事になってくる、これは同列である必要はないのではないかなと感じました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。よろしいですか。

では、佐藤和子委員、よろしく申し上げます。

○佐藤和子委員

6 ページの「新しい未来をつくる力に変えていくことが必要です」というところで、視点の部分です。今回この総合計画をつくる上で、戦後最大の感染症の危機に私たちは向き合うことになりました。

多くの市民の皆さまのご協力でもまず第1波は乗り越え、これから第2波、第3波という備えもしていかなければならない状況で、また、未知の感染症にもこれから戦いがあるかもしれないという意味では、私たち市民の思考、考え方を前向きなものに変えていく、そういう努力が「この社会を変えていくことにつながっていくのだ」「乗り越えていくのだ」という、人に視点を当てたものを文面の中に入れたらどうでしょうか。

これが6 ページか、もしくは11 ページになるかは私も分からないのですけれども、今までとは違って、人との交流も控えなければならない、まるっきり前の状態に戻るというわけではなく、これから私たちはウィズコロナで生活していくこととなります。そういう意味で、コロナの影響でいろいろ差別も出てきている中で、前向きな思考をどう持っていくかという視点もいかがかなと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。もう少しこの辺りについてご意見を伺って。

どうぞ、今委員。

○今里織委員

11 ページまで改めて読んでみて、これまで皆さんと一緒に話し合ってきたことが前向きな表現でたくさん書かれていて、これを取り組んでいったら素敵だなということはすごく感じます。

だけど、「なぜこれをやるのか」という、その「なぜ」という目的となるものがもう少し明確に書いてあった方が、市民が、私が、私たちが読んだときに、より身近に感じられるのではないのかなと思いました。

「なぜ仙台を良くしていきたいのか」「なぜこれを推進していくのか」という、その目的が見えなくなっているような気がします。「でもそれって当たり前だよな」ということなのであれば、「ああそうですか」という感じなのですけれども、そこまで明確にしなくてもいいのかなと思うのですが、「なぜ仙台を良くしたいのか」「自分たちが住んでいて満足したい」とか「住んでいてうれしいな」とか「そういうことを感じたいから仙台を良くしたいよね」、そして「仙台を選んでほしいよね」というところが、何か少し見えないかなと思って、そんな違和感を覚えました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほか、どうでしょうか。話を分散させないために、前半のところでご意見があったらいただきたいと思えますけれども、いかがですか。

渡邊委員、お願いします。

○渡邊浩文委員

結構大事な議論をして、皆さんのご意見1つ1つをその通りだと思いながら、どうしたらいいのだろうかというふうなことをずっと考えておりました。

例えば社会の変化というものを、広く仙台市は繰り返し乗り越えてきたわけです。乗り越えてきた次に今度は新型コロナというのが来てしまったけども、これだって乗り越えていけるよねというメッセージが11 ページにあるといいのかなと思うのです。

なので、例えば「社会の変化を力に変える」のではなくて、変えてきたし、これからも変えるというような、そういうニュアンスのページになるといいのではないのかなと。これまで乗り越えてきたし、その都度力に変えてきた。だから「これからもできるよね、俺たち」というような雰囲気が出るといいのではないのかなと思いました。

そういう意味では12 ページの概念図についても先ほどご指摘されたように、実はこういうのはもう都市個性の中に包含されているというような見立ての方がいいのではないのかなと思ったものですから。

流れに棹さすような発言ではありますけれども、あえて発言いたしました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そういう感じがしてきました。

そのほかいかがですか。

飯島委員、お願いします。

○飯島淳子委員

11 ページに関して何点か申し上げたいと思います。

1 点目は、社会の変化への対応力、仙台の優位性が、仮にデジタル化を中心としているとしますと、これは従来から言われてきたことではないかと思えます。

仙台の優位性について、都市から地方へ、また地方の中の中核都市だというのであれば、例えばコンパクトプラスネットワークというのはまさにこのことを意味しているだろうと思えます。従来から言われてきたことと何が違うのか、コロナを機にさらにこれを重点化するのか。10 年間とは言え、そう長い期間ではありませんので、具体的なメッセージとして出すことができるのか、検討の余地があるかと存じます。

2 点目は、現時点だけを取れば、コロナ対策については、プラスだけではなく、課題が露呈している部分も多いというご指摘もございました。前向きにというのは賛成なのですが、しかしそういった課題は指摘しておく必要もあるのではないかと思えます。

3 点目は、社会の変化についてです。社会は変化していくというのは当然のこととして、しかも急激な変化があるということは、コロナの前からも認識されていた中で、この社会の変化というものをどのように捉えるのか。社会の危機なのか、新たな日常になるのかということもございますので、社会の変化の捉え方も問題になろうかと存じます。

最後に、竹川委員のご指摘のなかで、この部分を時限的にすることもあり得るのではないかという話もございました。ただやはり、この 10 年間というスパンの中で取り上げるからには、10 年を見据えたものにする必要があるだろうと思えます。できるかどうかという問題はありますし、総合計画の体系の中で工夫の余地はあるかもしれませんが、10 年間という総合計画のスパンを意識してもう少し考えたいと思えます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

阿部一彦委員、お願いします。

○阿部一彦委員

自分の感想みたいなことになりますけども、テクノロジー、ICT というのが、仕事で使わざるを得なくなっていて、やってみるといろいろな可能性があるかと気付いたところでもあります。

新型コロナウイルス感染拡大に伴う大変さとともに、やはりさまざまなテクノロジーの応用面にいろいろな場面で気付いているということをお知らせします。

例えば今いろいろな分野、福祉領域では、縦割りの相談の仕組みがあつたりして断らない相談というのも大事だというときに、Web 会議を利用すればもっと円滑にいくのではないかなども含めて、プラス面もあるというのはもう委員の皆さんご指摘の通りですけれども、それは私たちにとってすごく大きなことだと思いました。

それから、障害者・高齢者の在宅就労の機会ということも書いていただきました。今まで就労と福祉は別もので検討していたのですけれども、今度は職場の中で福祉のサービスを使えるようになると思えます。使えるようになるのですけれども、ただその仕組みを使

うかどうかは、それぞれの地域で障害領域の地域生活支援事業で取り組まなければ、そこまで踏み切れないみたいな、地方分権的なこともあります。

さらに通勤する困難があって、障害があって就労できない人にとっても今大きな機会が訪れているということも、この中で読み取ることもできるのかなと思うとともに、もう一つ、例えば資料4で、これは当然だと思いますが、徒歩や自転車圏で楽しめる空間づくりとか、徒歩や自転車を中心とした、そうすると、自転車を使えない人はどうなるのかなと心配です。内容の文章を見ればそうではないのですが、それもきちんと取り組みながらも、そういう心配もする人もいるのではないかと思います。

自動車だけではなくて、ヨーロッパのスイスでしたか。まちを移動するときには自転車というところもあったような気がしますけれども、そういうふうになったときに、取り残される人はたぶんいないと思うのだけれども、そういう心配を持っている人もいるかなということ、感想みたいなことですが、少し申し上げておきたいと思います。

Webとか、さまざまな技術、仕事でやらざるを得なく追い込まれて、やってみるといろいろな可能性があることに気付いたということ、多くの人たちが体験しているのではないかと思います。この書かれている内容についても、その辺のところを想起されている部分もあるなと思っていました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほか。

榊原委員、よろしくお願いします。

○榊原進委員

皆さんのご意見をうなずきながら聞いておりました。

「変わる」という表現がいろいろな意味を持っていると思っています。本来変わるべきだったことが、いろいろな事情で変われないので、例えば、本当はテレワークとか、働き方改革と言われていて、テレワークなんかはもうずっと前から叫ばれていることがコロナをきっかけに、変わってきている。

でも一方で、3密を楽しむような場所の飲食店は、本来変わってほしくないことが今変わってきている。「変わる」についても、その前がどうだったとか、本来どういうことを目指していたかということも、竹川委員がおっしゃっていた本質的なそもそもの課題というか、コロナを理由に、コロナをきっかけに変わるべきことが変わってきているという状況にあるのかなと思っています。

もしかしたら5年後10年後は、その「変わった」結果が分かる状況になっていると思っていて、そういうことを考えると、あまり今起きている状況だけを表面的になぞるよりは、やっぱり本質的にどこに変わるべきものがあるのかという本質的な課題にもう少し向き合った方がいいのではないかと思います。これまでの議論を聞いていました。

仙台の優位性と仙台の個性は、たぶん同一のもので、そこは揺るぎないものとしてあるのですが、もっと強く打ち出すというのはあると思いますし、渡邊委員がおっしゃっていたように、「これまでも乗り越えてきた」ということが、ある意味仙台の強みで

もあるし、その辺の表現はしっかり入れていただけるといいと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。そのほかどうでしょうか。
笹羅委員、よろしくお願いします。

○笹羅良輔委員

資料5の11ページですけれども、未来へというところで「大きな危機に際しては、これまで抱えてきた課題が表出し、社会的に弱い立場にある人ほどより困難な状況に置かれますが」となっているのですけれども、同時に以下で「好機にもなり得ます」となっています。この弱い立場にある人はどこに置いていかれたのかと感じました。

あとは先ほど渡邊委員が言ったように、東日本大震災という事態を乗り越えてきたというところをもう少し強調した方が。それがあったからこそ、今があるというところを分かりやすくさせた方が良いのではないかと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。
では次に小岩委員、お願いします。

○小岩孝子委員

私も11ページの一番上に書いてある「社会の変化を力に変えるための視点」。もちろんそれも大切で、11ページの背景のところの下から2行目に書いてあるような、「新しい未来をつくる力につなげる」ということは非常に大切なのかなと拝見しました。

資料4の教育・子育てのところの3番目に、「各家庭の経済的事情による」と書いてあります。各家庭の経済的事情によることもたくさんあるのだけど、家庭教育のあり方による子育ての格差というのが、非常に出了ここ3カ月だったと思っています。だから、そういう家庭教育のあり方ということにも視点を向けて行かなくてはいけない。学校も非常に大変で、一生懸命頑張っていたなと私は思うのですけども、市民協働という言葉が、仙台はほかの都市よりも広まっていると思うので、資料4の地域協働プロジェクトの欄の、教育・子育てのところにも家庭・学校・地域の取り組み、協働的なことを入れていった方がいいのではないかと思います。

やはり子どもも親も地域の中で生きていて、家庭があって、だけど家庭だけではなかなか大変で、学校も大変で。みんな地域の中で一緒に取組まなければいけないということが非常に出てきたと思うのです。

「ローカルとグローバルの両面の視点を持ちながら」という取り組みは非常に大切だと思っているので、そういう教育・子育ての中にも、家庭と学校と社会・地域とともに取り組むような言葉を何か入れてもらおうと、地域の間人としても動きやすいし、学校も動きやすいのではないかと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございました。事務局に確認です。資料3と4自体は、総合計画の中には残らないということよろしいですか。

この総合計画の下で次に実施計画、下の計画をつくろうというときに考えないといけない視点として参照してもらうようなものにはなるだろうけれども、この資料5の冊子の中には、ダイレクトにこの資料3とか4とかというものが入ってくるということではないですよ。

○松田政策企画部長

まず資料3・4は、この資料5を整理する上で、コロナの影響、そしてそれによってどんな施策がどんな影響を受けるのかをいったん整理させてもらった資料ということですので、これがそのまま全部載るということではないですけれども、ただ先ほどから内容が不十分であるというご指摘を多々いただいておりますが、例えば資料3の考え方については、11ページに盛り込んだつもりでおります。

そのままの言葉ではないですけれども、コロナウイルスに対するまちづくりの考え方というものを、この11ページにまとめたつもりでおりますし、資料4のマトリックスの表につきましても、基本的には資料5で言いますと、重点プロジェクトの中に織り込んでいたり、もう少し細かいものであれば、分野別の中に入れていたりというところがありますので、一応全く同じ文言、レベル感ではないかもしれませんが、この資料5の中に織り込んでいくということになります。

○奥村誠会長

分かりました。ほかはどうでしょうか。まだご意見をいただいていない委員さんは、佐藤静委員、どうぞ。

○佐藤静委員

仙台の優位性のところが先ほど話題になっていたようですけれども、この辺りは、やはり仙台がこれまで震災であったり、水害であったり、コロナであったり、いろいろ乗り越えようとしてきた、あるいは乗り越えたという、そういう基盤があったはずで、蓄積された、積み上げられたものがすでにあるというところを、きちんと押さえておく必要があると思います。だから何が起こってもいろいろ対応していけるのだという書き方にすると分かりやすいのかという気がしました。

コロナというのは、やはり1つのエピソードと捉えるべきなので、その辺の基盤というのは一体何かということです。例えば仙台市であれば、市民の力が非常に大きいわけです。あるいは専門家がたくさんいます。そして行政、あるいは教育、学校も一丸となってやってきたような歴史がありますので、この辺りのところを基盤として押さえた上で、「だから何があってもやっていける力を持っている」「これが仙台の優位性である」というような、そういう示し方をした方が分かりやすいという気がしました。

○奥村誠会長

ありがとうございました。まとめる方向についても大変、示唆いただきまして、ありがとうございます。

傳野委員、お願いします。

○傳野貞雄委員

今の佐藤委員の通り、考えておったところなのですが、県内の感染者は 88 人から全く増えていないというのが状況でございます。我々はじっとワクチンができるのを待っているのですが、やはり仙台という土地柄と言いますか、今、仙台の市民の皆さんを見ると、じっと去るのを待っていて、我々は東北人という魂を持った仙台人であるということを非常に誇りに思っております。

いろいろなところの変化は当然あるにしても、これは人間の力で乗り越えなくてはいけない部分ではありますが、我慢ができる東北人というところの仙台の力強さが、東北でも群を抜いている部分があるので、一番人口の多いのにそれほど広がらないのかもしれない。

ですからその部分では、「社会の変化を力に変えるための視点」という中に織り込めるものではないのかと思っております。

○奥村誠会長

どうもありがとうございます。

姥浦委員、お願いします。

○姥浦道生委員

大体ほかの委員さんがおっしゃったことに賛成なのですが、11 ページに書かれていることというのは、基本的には新しく考えなければならないことよりは、ほとんどが今まで考えてきたことを、どうさらに時間を早めて進めていくのかということが中心なのかなと思っております。

その証左がたぶん 7 ページから 10 ページまでは何も黄色が引かれていないことに表れていて、それが正しいのかどうなのかもあれですけれども、それぐらい根本的に我々が進まなければいけない方向性というのはもうすでに打ち出されています。それはコロナがあるろうがなかろうが、やはりしなければいけないことであって、コロナが来たからといって、その根本が何か変わるわけではないということ、もう少し書いた方がいいのではないかという気がいたしました。

たぶんそれが仙台の優位性ということなのかなということですが、すけれども。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかございますか。

阿部一彦委員、お願いします。

○阿部一彦委員

20 ページです。01 の2つ目の黒丸のところです。実はすごく細かい話になりますけれども、これは大事なことだと思います。「当事者の声を踏まえたユニバーサルデザインの推進と合理的な配慮の徹底を両輪として」というところで実は今、障害者基本法の改正をすべきかどうかという議論が出てくる中、「合理的な」の「な」をなぜ入れたかという問題で、今は合理的配慮という言葉の方がいいのではないかという議論もあります。少し細かいようだけれども、自分も今頃になって気付いたのですけれども、その辺も調べていただいて、障害者差別解消法では合理的配慮にしたはずなのですからけれども、基本法には「な」が入っているのも事実です。

でもそれを改正すべきだということで、改正はいつするか分かりませんが、その辺のところ「な」を入れるかどうかですけれども、検討いただければと思います。

本当に細かい話でした。すみません。

○奥村誠会長

ありがとうございます。では話題的に最初のコロナをどう考えるのかというところについて、取りまとめをしたいと思うのですが、その前にその部分にまだ言い足りないということがありましたら。どうでしょう。大丈夫でしょうか。

岩間委員。

○岩間友希委員

私も皆さんが言ってきたことに基本的に賛同していますし、方向として東北の魂があるから、それをやってきて、これまでの方向性を書いていくのでいいのではないかというのに賛同しているのですが、そうしたときに、私も竹川委員と一緒に、最初のページ「はじめに」にまぶして入れるぐらいというのは、すごく共感するのですが、11 ページがやはり今に寄りすぎていて、文章も少し長いし、冗長的だなというところを感じていました。

よりこのページに1 ページを割くのかも分からないのですが、伝えるべきこととはやはり皆さんが言ってきた、これを読む人が共感するような強いメッセージを伝えることの方が具体的に細かく書くことよりも重要なのではないかと思います。

例えば「テクノロジーを積極的に活用する」と書いてしまうと、サービスや小売りなどが多いまちに行ったときに「そんなの使えないよ」という人が共感しなくなってしまうかもしれないなと思ったのです。

細かいことを書けば書くほど共感が薄れてしまうのであれば、もっとシンプルに「時代は変わったのだ」と。「でも東北の魂をみんな持っているから大丈夫」「向かっていこうぜ」みたいな。挑戦を是とするということを強く打ち出した方がメッセージとしては強く残るのではないかと思った次第です。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ほかにありますか。

私も少し。「なぜ」あるいは「目的が見えない」というご意見もあったのですが、たぶん大変大事なことは、その個性ももともとあったわけではなくて、時代時代において

危機というのか変化に直面した人たちがいろいろ考えて、その結果が積み重ねられてきて今があるということ。

そして、今回もそういう積み重ねをしながら新しい展開を諦めずにやるというのが現世代の我々、この総合計画が書いている主語の我々、「私たち」共通の使命であるはずなのです。だから、「これをしたいからやる」というよりは、「我々はそういうことがもう運命づけられているのですよ」と。そのうちの1つの波が今回やってきただけで、今までの波も乗り越えてきたし、今回も乗り越えないといけないというのは当たり前なのだとということが、たぶんあるのではないかなと。

だから、資料5の2ページ目に黄色で書いてあるのですが、ここで急に1つの大きな波が来たかのように書くのではなくて、そういうものの中でいろいろな取り組みをして乗り越えてきたし、そういうことができる力を受け継いでいく、あるいは育てていく、強めていくというのが私たちのまちのいいところだと理解すればいいのかなと。

たぶんそのことは4つの個性の学びの部分にあたります。行政文書なのでどうしても、「こういうようなことがあったら間違いなく対処しましょう」みたいな書き方になるのです。

でも、間違いなく対処するということができないかも分からないのです。間違いなく対処することが重要なのではなくて、間違っても仕方がないかもしれないけど、座して待つよりは「こういうことができるのではないか」ということを、知恵を出しながらチャレンジするというのが大事で、そのチャレンジの結果、失敗したら失敗したですぐ変えればいい。

だから、学びのチャンスらしい、学ぶことが積み重なってきたということでこの仙台というまちが育ってきたというか、残ってきた重要な個性なのではないかということと言うと、今回のことをそう取り立てて書く必要もないし、今回のことについて具体的にでてきたことをあまり書きすぎない方がいいような気がします。

だから、これは今皆さんからいただいた意見の共通するものなのかなと思いますので、むしろ11ページを一生懸命書いてもらったのですが、ここのところはやめてというか、1ページ・2ページなのか、あるいはさっきの6ページの「挑戦を続ける新たな杜の都へ」の挑戦の意味ですね。この挑戦の中にもう入っているのですよね。きっと。今回の挑戦も。

だから、ここのところにもう少し書くのかな。6ページに「この10年を振り返ると」の黄色いところがありますけど、ここところに「今回も頑張ります」というようなことを書くとか。それと少し先取りして申し訳ないのですが、違和感を伝えておくと、11ページの「社会の変化を力に変える」というのも、「社会の変化は分かるのですか」と。

たぶん、徐々に表れるタイプの変化と、急激な変化が2つあって、この社会の変化をよく認識して力に変えるというのは、ずっと来ている方向は見て、それに乗っかっていくという感じなのだけど、たぶん求められているのはそうではなくて、これまでだったら何となくうまくいっていたものが、そうでもなくなってきたというときにどうするのというときに、そこで諦めずにいろいろな人の意見を反映させながら、やり方を失敗も含めて学びつつ、何とかしてそのうまくいくものを活力に変えつつというこの4つの個性をうまく組み合わせ取組んでいくということの取組み自体が問題なのであって、だから社会の

変化をうまく見て「間違いなくやります」というスタンスではなくて、その場で諦めずに「みんなで頑張ります」というそのことなのではないかと。

それでダメだったらダメだったで、そこから学べばいいのではないかとという前向きさというのが重要なのかなと感じています。

そういうことで、今回せっかく 11 ページに書いてもらったけれども、ここまで書く必要はたぶんないかもしれない。むしろ前のところに対しての位置づけを少し書き加えていただければ、基本的に4つ、この我々が受け継いできたものをさらにこういう機会にチャレンジの中で磨きをかけて、受け継いできたものに付け加えていって、まちとしての生き延びる力と言うのですか、それを高めていくのにつながるという、そういうスタンスは伝わるのではないかと感じているところです。

ということで言うと、あまり書き換える必要はむしろないのではないかとという方向で、次回に向けてどういうふうに精査していくか考えていただいてということによろしいのではないかと思うのですが。

委員の皆さんからご異論がありましたらいただきたいのですが。よろしいですか、そんな感じで。

姥浦委員、どうぞ。

○姥浦道生委員

私、ひょっとしたら「あまり書かなくていい」というふうに言ったかもしれないですけど、ちゃんと書いた方がいいのではないかなと思います。1ページなのか半ページなのかは分からないですけども、やはり市民の方の非常に大きな関心事だと思いますので、これで仙台市の方向性が一体どういうふうになるのかということは、きちんと書いておくべきことなのかなと。それはたぶん1行ではなくて、歴史として終わった話ではなくて、現在進行形で続いていることなので、これは半ページか1ページかはあれですけども、ちゃんと独立した項目立ててやった方がいいと思います。

ただ、内容として先ほど申し上げたのは、これまでのことをそんなにドラスティックに、すべて覆すという話ではありませんよ、ということを上げました。いろいろ意見があるので、あとはお任せします。

○奥村誠会長

ありがとうございます。ではその辺りの相談をこれからさせていただきたいというふうに思います。

それでは次。市役所の運営方針とかはまた議論があると思いますので、その直前まで。30 ページ。プロジェクトの終わりのところまで。

先ほど阿部一彦委員から福祉の関係のところでも文言がいいのかどうかというご指摘がありましたけども、「合理的配慮」「合理的な配慮」のところですね。そのほか、この辺りまでで何かご意見はございますか。いかがでしょう。

佐藤静委員、どうぞ。

○佐藤静委員

これも少々細かいところで恐縮です。24 ページのところですが、「意欲を引き出し、伸ばす教育環境をつくる」として、最初に「子どもたちの自己肯定感を育み」という文章が出てきます。ここはこの通りでいいとは思いますが、自己肯定感というのは盛んに言われることです。常に自己肯定感という言葉が出てきますが、そこに「自己効力感」というのを付け加えていただけるとありがたいなと思っていました。

自己肯定感というのは、「自分はこれでいいのだ」という気持ちですけど、自己効力感というのは「自分はやれるぞ」という挑戦に結びつくような気持ちなので、「自己肯定感と自己効力感」というような形で一緒に述べていただけると大変ありがたいと思っていました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。

今野彩子委員。

○今野彩子委員

28 ページのところを見ていまして、まさにこれから地域の経済を回復していこうという段階なのですけれども、この中で、我々中小企業が地域とか、社会に向ける眼差しとか本気度というのはすごいものがあるなというふうにこのコロナの状況で感じました。

イノベーションの担い手として、地域企業がここに登場していないということを改めて読んでみると感じまして、22 ページには「企業やNPOの力を地域に活かす」ということでは表現してあるのですけれども、地域企業も非常に挑戦していますし、ますますこれからいろいろなことが変わっていく中で、チャレンジブルでなければいけないと思っています。

あとは企業の地方移転ということを考えたときに、地域にこういうチャレンジブルな中小企業があるから、それと掛け合わせるために移転したいと思ってもらえるように、自分たち自身がありたいなという思いも含めて、ここにイノベーションの担い手としてきちんと書いていただけるとありがたいなと思います。

すいません、個人的な思いも含めて感じました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

竹川委員、先にどうぞ。

○竹川隆司委員

読んでいて少し区別をした方がいいかなと思う部分が2点ほどありましたので指摘させていただきます。

1つは22 ページ03の「企業やNPOの力を地域に活かす」という部分なのですけれども、2点挙げられているこの2点の差がよく分からないと感じておりまして、ここで言いたいのは、おそらく「企業、NPO、市民団体を含めた多様な主体が連携して成果を出します」

という話と、「地域内外支店経済を強みにするということも含めて地域内外の連携を強めて地域に活かします」という話と、このような2点なのではないかと本質的には思っているのですが、今のこの表現だとそれが少々伝わりきらないのかなというのが単純に感じた部分でございます。

もう1点はイノベーションの話です。少し違う視点なのですが、28ページと30ページを見比べたときに、28ページの01で書いてあるイノベーションの話と、30ページの02で書いてあるイノベーションの話が混在していると思っています。

30ページで書くべきことというのは、おそらくここの趣旨に鑑みると、インフラ、ハードまわりに近いことかと思うのですが、それが28ページのソフト、人づくり、環境づくりというところの要素まで30ページの02に入ってしまったので、このところの区別をより明確に表現していった方がいいのではないかなというのが感じた部分でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。

岩間委員、お願いします。

○岩間友希委員

これは質問になるのですが、資料3「2(2)仙台の優位性」のところに「豊かな自然環境を有する郊外の活性化が必要」と方向性を書かれています。これはどの辺に反映されたのかなということを確認したいです。共感するので、少し入れられるといいかなと思ったのですが。

○奥村誠会長

事務局、お願いします。

○上田政策企画課長

ご質問ありがとうございます。資料3の中では、郊外エリアの活性化についても記載したのですが、実は8つのチャレンジプロジェクトの中には、今のところは十分に書き込めていないことは事務局としても考えておりました。

1つは「④地域協働プロジェクト」のところで、郊外地域の活性化も協働して行くことを書き込んでいくか、あるいはもう少し別なところでそういった趣旨のことを書き込んでいくかというのは、まだ今回示しきれなかったかなと考えております。

この辺についても次回以降、少し整理した上でまたお示しできるようにしたいと思っております。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。いかがでしょうか。

浜委員。

○浜知美委員

28 ページの部分です。この未来プロジェクトは、ビジネス向きの話なのでそこにそぐうか分からないのですが、今は観光のお仕事をさせていただいているのですが、やはり短期的にはまだ外国人のお客様は戻ってこないと思います。

それで、いつも日頃から大事にしているのは、今いる外国人の人たちを大事にするということと、せっきく東北大学など市内には大学があるので、その人たちと地域をつくっていくということ。

というのも、県内に就職する人はかなり少ないので、その部分で、例えばこの 03 のところに学都のことも一言、文言を入れていただけるといいのかなと思いました。

○奥村誠会長

検討していただきたいと思います。そのほかどうでしょう。

庄子委員、お願いします。

○庄子真岐委員

少し細かいのですが、26 ページの実施の方向性の 02 で「高齢者や障害のある方、女性が」で限定しているのですが、例えば男性の方でもライフステージ的に障害がある方とかもいらっしゃると思うので、ここは限定するのではなくて、「誰もが」とかの方が表現としてはいいのかなと思いました。

あと、ここもどう書いていいかわからないのですが、27 ページの黄色で追加された「リスク分散の観点による企業等への地方への意識が高まるなか」で、「リスク分散の観点」とこも限定しているのですが、少し消極的なのかなと見ていまして、企業とかが地方へ移転をしたいと考えるときに、やはり仙台の優位性や魅力があって、リスク分散の観点からではなくて、魅力があって移動したいというのもあると思うので、ここもリスク分散の観点、例えば、せめて「等」などを入れていただけるといいのかなと思いました。以上 2 点でございます。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかありますか。よろしいですか。

大体出尽くした感じですか。

竹川委員、お願いします。

○竹川隆司委員

今、ちょうど庄子委員がおっしゃったところ、私も思っているところだったので、案を出させていただくと、リスク分散の観点だけではないというのも激しく合意していて、例えば「リスク分散の観点と、働き方の変化に伴う企業等の地方への意識が高まる」みたいな変更だと、そのポジティブな部分も補完できるのではないかなと感じました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。それでは個別のところについていろいろ意見をいただきましたので、それを元に次回までの間にどういうふうにするか、事務局で相談していきたいと思っています。

それでは、残りの時間になってしまいましたけれど、31 ページ、「Ⅳ 仙台市役所の運営方針」。この名前がいいのかどうかも含めて、そこから「Ⅴ 区別計画」「Ⅵ 進行管理の方針」の3点について、まとめてご意見をいただきたいと思っています。

区別計画のところは、今回は区民イベント等の意見を載せているということで、次回以降の素案でさらに書き込まれることになるとは思いますけども、現段階で確認したい点、ご意見がありましたらお願いしたいと思っています。いかがでしょうか。

舟引委員、お願いします。

○舟引敏明委員

区別計画です。さらっと書いているのはいいのだけれど、その区の何がいいのか、良いところと悪いところがごちゃごちゃになっていて、とりあえず書いてしまったという感じが結構しています。

もう少し本気で区の魅力を打ち出してあげて、かつ、まずいところがあったら、これから10年間で何を直していくという、メリハリの効いた記述にしてあげないと、単に区別計画がありますから、ただ書いていますというような印象を一読して受けました。

これから10年間何をやるかというロジックが全然見えないような書きぶりになっているのは、どうかした方がいいのではないかと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。

では菊地委員。

○菊地崇良委員

31 ページの仙台市役所の運営方針。中身を見ると、これは仙台市役所という行政体の、例えば職員の勤務をどうするかという話ではないので、この表題は不適切。変えた方がいいと思います。市の運営方針とするならまだ分かります。これは再検討だと思います。

それから中身のことですけれども、特に「都市構造形成の方針」。前後をざっと見ていくと、東北の中心であり、その域内の活性化とか、今回のコロナも含めて言っているのだけれども、どうも中心市街地と、東西線・南北線の話だけに終始して、広域的な仙台市の都市の役割ということが全然反映されてないと思います。

せめて仙台都市圏、商業圏でもいいのだけれども、そういったところは最低限に見据えた都心の構造がどうあるべきかを反映すべきというのがまず1つ。

もう1つは交通体系の話も65 ページ辺りに書いているのだけれども、そういった新たな交通軸が、今ほど申し上げた都市軸とさらなる範囲の中でどういうふうに広がるかというところを書かないと、今までと全然変わらない。時代のニーズに合わないなと思います。

今のは物理的な話です。それからもう1つは、行財政改革とか効率化という話をしていると、やはり広域での連携というのはもう外せないところです。広域連携についてもう少し書く必要があるということと、その中身は単なる物流とかだけではなくて、文化とかそういうものを含めた広域での連携というものは、実際にやっているし、さらにそれをやっていく必要がある。それによってその都市の主要なインフラと言いますか、施設なんかというのも適正配置したり、あるいは共有したり、そういうことにもつながってくる。これはこれからの時代に欠かせないので、入れるべきだと思います。

あともう1つ。話が戻って恐縮なのですが、24ページです。

今の仙台市の経営方針の中にあるのだけでも、家庭教育の話がさつきありました。学校教育と家庭教育、あるいはその子どもの子育て、見守り、家庭が大事なので、24ページのレベルに家庭というのが、家庭教育、家庭が入ってくるべきということと、今日の冒頭にあった仙台市の都市個性ということ。これは私が第2回か第3回の審議会のときにも言ったのですが、やはり市民がどういうものなのかということ、しっかり入れてほしいなど。あまりにも無機質であるので、笑顔だとか、優しさだとか、助け合う姿というのを、もう少し情緒的に、例えば6ページ辺りに入れてほしいなどというのを追加いたします。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。

なければ私から少し。先ほどの市役所のところなのですが、31ページの(1)です。「あらゆる事態を想定した持続可能な都市運営」なんてできるのですかと。そんなことができたら、すごいなと思うのですが、たぶんあらゆる事態は想定できないのです。

それに対して対応できるような力をどうやって残していくかということは大事けれども、これは無理なのではないかと思うので、この表現はないだろうなどと思って見ていました。ここだけ言うておきます。

そのほか、いかがでしょう。榊原委員。

○榊原進委員

検討の途中段階だと思うのですが、区別計画を今回初めて拝見いたしました。総合計画では、仙台の4つの都市個性として環境・共生・学び・活力を位置づけています。その4つの都市個性について区としてはどう取り組むのかということとリンクしていた方が、ずっと読めるかなと思っています。

この都市個性は各区によってたぶん強弱が付く部分もあると思うので、その辺の書き方というか、統一した方がいいのか、分からないのですが、その中でも、例えば「活力は青葉区が中心になってきますね」とか「青葉区は強めに言いましょうね」とか「環境はどこが強く言いましょうか」のようところが少し出てくると、それぞれの個性がまた生きてくるのではないかなと思いました。

今後、そういうことも中心に各区でも検討いただいて、この審議会でも議論できればいいかなと思います。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。
遠藤智栄副会長、どうぞ。

○遠藤智栄副会長

87 ページ「進行管理の方針」の「2 実施計画の推進・進捗確認」ですが、ここを読むと、定期的に進捗確認をして、新たな協働を生み出す機会をつくるということなのですから、やはり計画はつくって終わりではないので、もう少し書き込む必要があるかなと思っています。

例えば進捗確認とはまた別に、積極的な発信と、市民と企業と行政といろいろなところを巻き込んでこの計画を実施していくわけですから、そういった積極的な広報によって新たな参画者ですとか、計画の周知や実践を、新たに、さらに深めるための取り組みというのを、この計画の推進のところに入れていただくと良いかなと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。あとはいかがでしょうか。
渡邊委員、お願いします。

○渡邊浩文委員

迷ったのですが、迷っているのなら言った方がいいと思って発言します。31・32 ページの運営方針の文言はご議論あるというところですが、さらに1として「大切にする姿勢」となっているのですが、まず気になるのは、(5)の「デジタル化による効果的な都市運営」。これは当然にやっていかなければいけないことをあえて大切にする姿勢として書かなくてはいけないというところが、発言していいものかどうか少々迷ったところです。

それから、ここはどうなのでしょうかとというところで、左側のページの(2)で「協働による自発的な都市運営」とは何だろうかとというところが何かよく分からないと。特に仙台市の運営方針なり、市役所の運営方針なりとしても、よく分からないなというところ。

それから、区別計画のところは、先ほど来、ご指摘のあるところですが、一言で言えばやっぱり、この区別計画にも Greenest の思想が入って来ないと、1つのものにならないなというようなところ。その3点が少し気になったのでコメントしました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。
今委員、お願いします。

○今里織委員

私も区別計画の中に、渡邊委員が今おっしゃったようなことを入れた方がいいなと思ひまして、例えば、地域づくりの方向性はそれぞれの区でイベントをやったときに出てきた意見を踏まえて記載しているので、それぞれの区に住まう皆さんが、特に若い方々が感じ

ていることが中心に書いてあるのかなと思いました。

それぞれの区を見てみると、どこの区で取り組んでもおかしくないことが書いてあるのです。それがバラバラに見えてしまうのです。仙台市の中のそれぞれの区が自主的にやることなのではあるけれど、一貫性のある何かの中の取り組みとしてという整理ができると、よりそれぞれの区が引き立つのではないかと感じました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。

館田委員、お願いします。

○館田あゆみ委員

すみません、私も言うだけ言っておこうと思ひまして。

39 ページからの施策一覧なのですが、仙台市の行政でやっていくことがズラズラと書いてあると思いますが、できていることと、できてないことというか、これは 10 年間を通してここに書かれているとすると、緩急というか、強弱みたいなのがこの中に要るのかなと思いました。

例えば今回のコロナ対策もそうですけれど、たしかにこれはデジタル化にしてもずっとやり続けなくてはいけないことではあるけれども、スピード感をもって今やらなくてはいけないことみたいなものもあると思うのです。仙台市が遅れている部分とか、あるいはもう少し長い目でずっとやっていかななくてはいけないものとか、そういう緩急が分かるような書き方をされるといいのかなと思いました。

○奥村誠会長

ありがとうございます。そのほかどうでしょうか。よろしいでしょうか。

少し予定を超えてしまいすみません、2時間を超えてしまいました。

では、今日のところはいろいろご意見をいただきましたので、これを踏まえて事務局で素案の修正を進めていっていただきたいと。それをまた次回以降の審議会で引き続き審議していくということにしたいと考えておりますので、よろしくをお願いします。

(3) その他

○奥村誠会長

それでは最後、(3) その他となっていますけども、委員の皆さまから何かありますか。よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは本日の議事は以上で終了としたいと思います。最後に事務局から連絡事項をお願いします。

○上田政策企画課長

それでは事務局から 1 点ご連絡でございます。次回の第 8 回審議会につきましては、7

月上旬ということで開催を予定しております。

具体的な日時につきましては、会長ともご相談の上、改めて皆さまにご連絡いたしますのでよろしくお願いたします。

5 開会

○奥村誠会長

それでは以上をもちまして、本日の審議会を終了といたします。

本日はどうもありがとうございました。